

# 岡田図書館の 会報

第15号:2016年4月

## (目次)

- ・「古い日記に見る葵文庫のあの頃」 P 1
- ・2015 事業報告・2016 事業計画 P 2
- ・2016 年度総会・記念講演会 P 3
- ・【しずとも基金】について P 4
- ・町田・しずとも交流会報告 P 5
- ・図書館からこんにちは  
市内図書館ニュース P 6
- ・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」 P 7
- ・これからの事業日程ほか P 8

## 「古い日記に見る葵文庫のあの頃」

元・杉の子文庫主宰 外川志津子



開館当時の県立葵文庫（県立中央図書館所蔵）

「降る雪や明治は遠くなりけり」の言葉がありますが、昭和初期の頃の方がより遙か彼方に去った様な感のする現在です。僅か 70 年位前の戦争という人災を経て知の遺産である県立葵文庫について私の幼い日の黄ばんだザラ紙の日記帳から記してみました。

駿府城公園大手門近くの二の丸堀をへだてた場所にその図書館がありました。明治維新を経て徳川家の紅葉山文庫から運ばれた多くの書物や様々な書架が所せましと並んでいて「葵文庫」と呼ばれ、市民から愛されかつ一目おかれていたと思います。

国民学校の児童であった私は土曜日の午後は小学校教師であった「岡部令司」先生の読みかせが楽しく家も「葵文庫」に近かったのでいつも通っていました。1F の子供用の一室です。

昭和 20 年 6 月 19 日深夜、米軍飛行機来襲で焼夷弾により市の一面が焦土となる中、葵文庫は建物も蔵書も奇跡的に無事でした。その裏には当時の加藤忠雄館長の無謀とも思える献身的な消火活動がありました。その頃は全国的に空襲の日々でした。

さて昭和 21 年 7 月下旬、その文庫の扉に「8 月 1 日より 31 日まで女子 1 名募集」のハリ紙があり、私は行きたいと思いました。まだ 13 歳という年齢なのに是非にと思ったのは、単に本が面白い、葵文庫が好きだけではなかった。小遣い欲しさでもなかったのは後に気づきましたが…。保護者の叔母が同伴の下、当時の加藤忠雄館長に面談、何とすぐに採用でした。余程の人出不足だったのでしょう。初対面で心を惹かれた館長さんは今でも尊敬するお一人です。

さてその黄ばんだ古い日記帳から抜粋してみますと「8 月 1 日、8 時に文庫にいて朝礼の後みんなに御あいさつしてすぐ仕事をおそわった」とあります。

閲覧希望者はまず 2F へ行き、希望する資料名を請求用紙に書き入れ受付の前に並んで順番を待ちます。とにかく一人ひとりの請求用紙をもって分類、記号を頼りに階段を上下して探すのは若い私でも一日やると大変でしたが、もう一つ大変なのは当時の食糧難でした。敗戦で国の食糧配給統制も乱れ戦時中より悪化していて、みんな栄養不足と思われる中、よく頑張りました。

最後に書き残しておきたいのは、戦時中は報道も図書も雑誌もオール軍国主義的なもの以外は規制され、大勢の人々の活字に対する飢餓感も強く図書館へと来られたと思われることです。一例ですが、毎日毎日開館と同時にきては時に昼食抜きで 2 時ころまで読みふけていたおじいさんの姿が強く記憶に残っています。

僅か一ヶ月の、今で云うアルバイトですが、いま後期高齢者になった私の人生に大変大きく様々な影響をずっと与えてくれており、本当に感謝です。

8 月 31 日の日記には「今日で終わりでさみしい。大変だったけど楽しかった。ご苦労様の言葉と 90 円いただいた。みんなに元気でねと送られました。」と記されています。古い日記帳は私自身の分身でもあり生き甲斐にもなってきました。読書の大切さも身に沁みかけている昨今です。

# 2015年度 事業 報告

## 1 全体

### (1) 第7回総会と講演会

もくせい会館 2月22日 実施 76人参加

講演 イリナ・グリゴレ氏 私の中に生きている本～ルーマニアで育んだシュルレアリスム～

### (2) 静岡市市長選候補者へ今後の図書館行政ビジョンについて公開質問状送付

### (3) 市長と運営委員6名会見（教育部長、中央図書館長、同副館長同席）

「静岡市立図書館の運営についての提言書」を提出 3月11日

### (4) 静岡市美術館「ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと」関連事業「絵本を楽しむおはなし会」で読み語りに協力

10月17日～11月21日の土曜日全12回 延べ926人参加

### (4) 静岡科学館る・く・る めばえの科学おはなし会に協力 9月より12回

### (5) 2015しずとしよフェスタ（静岡市立中央図書館と共催） 11月1日

・折り紙教室 ・フィルムコートかけ体験 ・音楽入りお話会と工作 ・美術館学芸員による講演  
・ブックトーク ・図書館ツアー ・移動図書館車展示 延べ395人参加

## 2 学ぶ活動

### (1) 第19回静岡県図書館交流会（実行委員会と共催）

静岡県立中央図書館 6月30日 52人参加

・基調講演 「走り東北！移動図書館プロジェクト～本でよりそう復興支援～」 鎌倉幸子氏

・参加者による交流会

### (2) 専修大学荻原幸子氏「図書館のあり方について活動している住民団体の調査、研究」に協力

運営委員6名参加 10月7日

## 3 広める活動

### (1) 会報の発行 年2回（第13号3月、第14号9月）\*14号よりカラー版

### (2) ホームページの更新

### (3) 友の会（入会）案内の改訂 \*活動内容を精査、親しみやすいカラー版とした

### (4) 静岡市立図書館の「雑誌スポンサー制度」に協力

## 4 支える活動

### (1) 図書館協議会委員他関係者への資料提供と協議会傍聴（7月21日と10月30日、延べ5人傍聴）

### (2) しずとも基金による市立図書館への本と雑誌の寄贈

### (3) 「図書館友の会全国連絡会」「としょかん文庫・友の会」等全国組織と県内の図書館友の会等との連携

### (4) ブックリサイクル、古本市への協力

会員数 240人 2015年12月末現在

# 2016年度 事業 計画

## 1 全体

(1) 総会・講演会（2月11日）：実施済 (2) 第20回静岡県図書館交流会共催（6月4日）

## 2 学ぶ活動

(1) 図書館セミナー (2) 「図書館見学マニュアル」作成

## 3 広める活動

(1) 会報の発行 年2回 (2) ホームページの更新

## 4 支える活動

(1) 図書館充実支援のための働きかけ

(2) 静岡市立図書館への図書等の寄贈

(3) 市立図書館主催「図書館フェスティバル」などへの協力

(4) 会員の活動への支援・協力

(5) 他の図書館関連団体との協力

(6) 文化活動への協力

(7) 市民団体活動への協力・支援・後援

(8) 古本市への協力

# 静岡図書館友の会 2016年度 第8回総会・記念講演会

## 総 会

静岡図書館友の会・運営委員 山下 多津美

○日 時：2016. 2. 11（祝・木） 13:00～13:50

○会 場：静岡県総合研修所もくせい会館 1階富士ホール

○参加者：45名

今年の総会は建国記念日の2月11日に会員45名の参加の下に開催されました。

議案は下記の1号から5号までで、滞りなく終了しましたが、議長は急に罹患した風邪を押して強硬参加し、来賓祝辞はインフルエンザによる発熱で急遽代読に変更になるという、今冬の天候不順を象徴するような一幕が舞台裏ではありました。

前年度の事業報告については、パワーポイントによるスライドの説明を行っていますが、わ

かりやすくして会員の皆様からも好評のようです。

総会終了後に、田中代表より織田元泰顧問が昨年7月に逝去されたとの哀悼の意を込めた報告がありました。慎んで心よりご冥福をお祈りします。

- ・第1号議案 2015年度事業報告
- ・第2号議案 2015年度会計及びしずとも基金決算報告
- ・第3号議案 2015年度会計監査報告
- ・第4号議案 2016年度事業計画
- ・第5号議案 2016年度予算



総会風景

## 休 憩

## 記念講演会

○講 師：しりあがり寿 氏

○演 題：マンガとアートと静岡

○参加者：107名

理路整然と話をするのが苦手なので…とおっしゃってからは始まった講演会でしたが、内容はとても理路整然でした。

高校生まで缶蹴りをして遊んでいたとか、サラリーマン時代はチーム内で“足引っ張り担当”だったとかというお話から始まりましたが、次第に、「個性が嫌い。消しても残るのが個性であって、本人がこれを個性と言って作り上げたものは嘘っぱち。だから、描くたびに絵を変えていた。」「笑いは大好きだが、笑われる存在は笑えない。笑わせる苦勞も笑えない。笑い全体を含む環境まで見ると、笑えない。そこまで描きたいという意識がある。」など、創作に向き合う真摯な姿勢を語ってくださいました。

静岡県立中央図書館・司書 鈴木 由美



講演風景

ユルメーション（講師制作のアニメーション）が初め、うまく映らなかった時間にも垣間見えたお人柄の温かさ（ユルさと言うべきでしょうか、この場合）と合わせ、笑ったり頷いたり90分、芸術の一端に楽しく触れることができました。

終了後には、秘蔵の『ヒゲのOL 藪内笹子』にサインをしていただき、ますます大切な1冊になりました。ありがとうございました！

# 【しずとも基金】について

運営委員（基金会計）

稲垣洋子

静岡図書館友の会（しずとも）が生まれたのは2008年です。しずとものEメールアドレスに「sizutomo2008」とありますのは、設立した時の情熱を忘れないようにという思いがこめられています。その設立の直前、静岡市立図書館が民営化問題で大揺れだった時期、私たち友の会は「図書館のあり方」と「図書館との向き合い方」について、議論を重ねました。その結果をまとめた「市民の図書館政策」では、今までの要求型ではなく、支援・提言型の市民活動への移行を明言しています。

【しずとも基金】は、そこで詠った「私たちが図書館にできること～市民と図書館が共に成長する」の具現化であり、「私たちが図書館を応援するために何が出来るか」を考えた時、しずとも会員の中から自然発生的に生まれたものです。

欧米では根付いている「ボランティア精神」は、人を強制したりするものではなく、あくまでも自由意思で、「時間がある人は時間を！ 技術がある人は技術を！ お金がある人はお金を！」の考えのもとに地域社会を豊かにしています。静岡もそんな心豊かな街にしたい！【しずとも基金】には、その願いがこもっています。

このような経緯で2010年、しずとも会員の篤志家から多額の寄付があり【しずとも基金】が生まれました。そこで、「蔵書の希望や必要性があっても予算の関係で購入できない本を【しずとも基金】で購入していただきたい」と、図書館に申し出ました。それ以来毎年、図書館の司書さんたちが選書をして【しずとも基金】で書籍等を購入しています。

現在までの寄付は次のようになっています。

2010年度 69冊、695,119円  
2011年度 65冊 667,695円（書庫）67,200円  
\*貴重本の保管庫  
2012年度 48冊 734,895円  
2013年度 32冊 459,199円  
2014年度 50冊 541,814円  
2015年度 108冊 486,594円（雑誌除く）46,320円  
寄付総額 3,635,416円

書籍の合計は 372冊 3,521,896円になりますが、この372冊の中身は本当に様々です。

高価なものでは「静岡県人物・人材情報リスト2013 第1巻」「静岡県人物・人材情報リスト2013 第2巻」各58,000円、「日本著名名・人物典拠録1～4」各237,500円などがあります。子供向けの大型絵本も目を引きますが、高齢者向けの紙芝居、「峠の老い桜」「愛染かつら」「瞼の母」等は特に興味を持たれるものです。

☆ どのように選書にするのか静岡市立図書館の司書さんに伺ってみました。手順は次のようです。

- ①各館から購入希望図書をあげてもらう。
- ②特に予算の少ない地域館からは、高額な事典類やシリーズものなどがこの機会に購入希望にあがる。
- ③全館から購入希望があがったところで、バランスを考慮して購入図書を決定する。

・今年度の特徴的な購入については

- ①北部では、高齢者向けの紙芝居を購入。
- ②西奈・蒲原では、大型絵本を購入。
- ③清水中央・麻機・美和では、調べ学習用の児童書のシリーズを購入。

いずれも、各館の地域性や利用者層にあった図書を選書し、寄贈された書籍は大いに役立っているそうです。

図書館側から「友の会の継続的なご寄贈により、市民のみなさまに新しい図書を提供でき、本当に感謝しています。」というメッセージを頂きました。

今後もこの【しずとも基金】により、ますます図書館の充実を図る応援を続けたいと思います。

志ある方のご協力をお願い申し上げます。



寄贈図書の一部

# 静岡市立図書館見学と静岡図書館友の会との交流報告

## 町田の図書館活動をすすめる会代表 手嶋孝典

1月31日(日)かねてからの計画どおり、静岡市立中央図書館、御幸町図書館の見学会と静岡図書館友の会(以下、「しずとも」と)の交流会を実施した。町田からの参加は、9名(うち中学生1名)だった。

中央図書館の見学は、「しずとも」の草谷さんの案内でこどもコーナーからYAコーナー、一般開架、レファレンス室の順に見た。

こどもコーナーでは、パスファインダー(資料の探しかたについての手引き)が豊富に置かれていたのが印象に残った。市立図書館の職員の中には、学校図書館の経験者もいて、その経験を活かして「調べ案内」を作成しているとのことだった。調べるだけでなく、あるテーマについての読書案内にもなっていることに感心した。

昼近くになって、草谷さんと「しずとも」の山下さん、そして「すすめる会」の山口さんの車3台に分乗して、交流会の会場である草谷さんのご自宅(兼トモエ文庫)に向かった。

まず、トモエ文庫を見学させて頂いた後、用意して下さったおいしい弁当を食べながらの交流会が始まった。弁当以外にも煮物、漬物等のおかず、果物、お菓子、飲み物などがたくさん出て、食いしん坊の私にとって最高のもてなしだった。もちろん、もてなしは食べ物だけにとどまらず、車での送迎、たくさんの資料、「しずとも」の活動報告等、多岐にわたっていた。

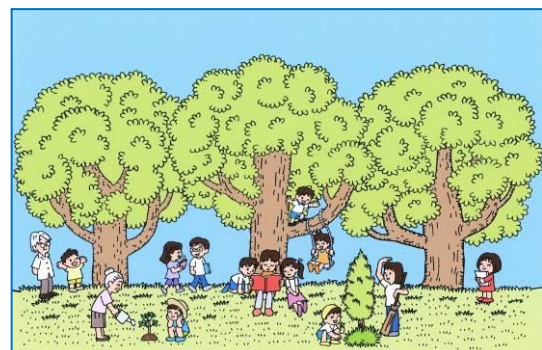
それぞれ自己紹介を兼ねて、お互いの活動を紹介し合ったが、「しずとも」の活動は、「すすめる会」の活動よりも幅広く、多岐にわたっていると感じた。もちろん、組織として比較する

と、「しずとも」は「すすめる会」の10倍以上の会員がいて、役員による運営会議を設けているなど、規模が大きく異なっている。例えば、「古本リサイクル市」は、市民ボランティアにより運営されているとのことだが、かなり大きな組織の取り組みか、他の組織との連携がなければ実施は難しいのではないかと思う。

私にとって「しずとも」は、住民の図書館運動を従来の要求型の運動から、あるべき図書館像の提示、図書館政策をつくる主体へと転換したパイオニア的な存在である。「静岡市立図書館の運営についての提言書」での提言、図書館協議会との連携など、これまでも大きな成果をあげているので、「しずとも」に学ぶことはこれからも大いにあると考えている。

楽しかった交流会もあつと言う間に時間が過ぎてしまい、残念ながらお開きになった。草谷さん宅を後にし、静岡駅近くの御幸町図書館に向かったが、見学には、佐久間さんが同行してくださった。御幸町図書館は「ビジネス支援」で有名だが、外国語の図書がたくさん揃っていることに感心した。

「しずとも」代表の田中さんを始めとして、多くの皆様にお世話になったことに感謝し、図書館見学&交流会の報告としたい。「しずとも」の皆様、ありがとうございました。



\* 本稿は町田の図書館活動をすすめる会の会報「知恵の樹」No.199の記事に加筆したものです。

# 図書館から こんにちは



## 「移動図書館にいらっしやいませ」

中央図書館主事 望月好江

昭和 54 年 9 月から開館している移動図書館ですが、平成 18 年 12 月から愛称「ぶっくる」として、図書館に来館するのが難しい市民の皆様が利用できるよう、市内 18 ヶ所のステーションを巡回しています。

利用者は、赤ちゃん連れのお母さん、主婦、小学生、園児、シニアの方まで、幅広い年齢の方々です。ステーションの中には小学校が 4 校あり、その場で先生方の調べものに関する本を検索したり、子ども達の夏休みの課題の相談や、修学旅行時の調べものなど、様々に活用されています。積み込む本の参考として、子ども達に今は何がブームなのかを聞き、他校の児童に紹介することもあります。お母さん達にもリクエストしていただき次回には用意できるようにしています。インターネットで予約して毎回リクエスト本を受け取る方もあります。本の相談にも

対応し検索できなかった本は、帰館してから調べて回答しています。

子どもの頃から本の魅力を知って欲しくて市内のステーション近隣のこども園等に広報活動をして、今では「ぶっくる」の来るのを待っていてくれる園児達があります。また、幼稚園児が絵本から字のある本に興味に変化してきたように感じられます。

園長先生に、「図書館に行ける家庭ばかりではないので、子どもが自分で見て選べる本はどんなに良いか」と言われ嬉しい限りです。

お散歩のついでに、先生に引率されて来る園児達もいて 2 ヶ所では、賑やかなステーションに様変わりしました。

ぜひ、見かけましたらお立ち寄り下さい。職員一同お待ちしております。

## 市内図書館ニュース

### 『雑誌スポンサー制度について』

静岡市立中央図書館

静岡市立図書館では、平成 27 年 10 月から雑誌スポンサー制度を開始しました。現在 12 の市内事業者に 29 誌の雑誌を購入していただき、その雑誌カバーと雑誌の書架にスポンサー名を掲示させていただきます。

静岡図書館友の会におかれましては、その内 10 誌をご提供いただいております。この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、実際にスポンサーの広告を雑誌カバーと雑誌の書架に掲示したところ、カラフルな雑誌の表紙に広告が埋没してしまい、全く目立たなくなっていました。そこで、「外枠をつけたら…」

という声があり、緑色の外枠ができるように画用紙を台紙にして広告を掲示することにしたところ、広告がはっきりと見えるようになりました。

機会がありましたら、ぜひ雑誌の書架をご覧ください。

今後は市外の事業者にも門戸を広げて募集をする予定ですので、もし心当たりの方がいらっしゃいましたらお声掛けください。

雑誌スポンサー制度  
の雑誌



## 会員リレーエッセイ



(B5版 32頁英訳付)

### ふじやまみほこ 答礼人形「富士山三保子」さんとの出会い

西奈図書館友の会“けやき”代表 門馬道子

日頃、昔ばなしや物語を子どもたちに語ることを楽しみとしてきた私ですが、まるで、何者かに取りつかれたかのように、昨年暮れから「物語」を書き始めました。

この2月「富士山の日」に89年ぶりに米国から里帰りした答礼人形「富士山三保子」を主人公にしたノンフィクション物語です。

きっかけは、北部図書館友の会・丹羽登美子さんの人形劇と紙芝居『太平洋を渡ってきたお人形さん』を観た日に始まります。

昭和2年、日米関係悪化を憂慮した米・宣教師が日本へ親善人形1万2千体余を送り、全国の小学校・幼稚園で大歓迎されました。その返礼として日本から58体の豪華な市松人形が米・各州へ一体ずつ配られ歓迎を受けました。

その後の戦況悪化で、静岡県から渡った「富士山三保子」は行方知れず…。

ようやく、平成26年、カンザスシティ博物館で見つかり、先日『里帰り展』が開かれました。(5月まで県内各地で開催、年末に帰米)

私は、この人形交流の提唱者、親日家ギュリック博士の「世界平和は教育を通じてのみ可能であり、とりわけ子どもの頃からの国際交流こそ大切」との信念に共感を覚え、今もギュリック3世に引き継がれ世界へと広がるこの交流の足跡を追い、子どもたちへと綴ってみたいのでした。これから、小・中学校など様々な場所で語り継いで行けたらと願っています。

西奈・友の会20周年に「三保子さん」と出会えたことに今、感謝しています。

～しずとも「ほっとコーナー」～



## ～図書館カフェ～

静岡図書館友の会会員 鷺巣 洋子

最近、近所にカフェができた。嬉しくなってみると、小さな図書館みたいで、店内には本がびっしり。カフェを併設した図書館がある、と聞いたことがあるが、これは、逆バージョンだ。大人向けの本だけでなく子どもの絵本や童話などもある。と、いうことは、この店は子どもの来店も歓迎なのだ。

梅の花がほころび始めたある暖かな日曜日、早速孫たちを連れて行ってみる。こじやれた引き戸にはめられたガラス窓から店内を覗くと、いるいる。乳幼児を連れた若い母親や、小学生。それに高齢者の男女など。

引き戸を開けて中に入る。見知った顔のご近所さんもちらほら。

孫たちは、笑顔のスタッフさんに案内されて一番奥まった個室風の席に着いた。三歳になる孫が、本棚から絵本を選び出し、読み聞かせをせがむ。

ちょうどそこに店主が注文をとりに来た。孫たちが元気よく「リンゴジュース」と叫んだ。そこでリンゴジュースを二つとホットケーキ、私の分はお汁粉を注文する。

待つ時間ゆったりと読み聞かせのひと時を楽しもう、と思ったがそれは到底無理な話だった。七歳と三歳の男の子はやんちゃ盛り。じっとしてなどいない。珍しいものだらけで好奇心全開だ。椅子から立ち上がり、本を選ぶという名目で店内をチョロチョロ歩き回る。とてもじゃないけどゆっくりなどしてはいられない。注文した品が出揃うと、急いでそれを呑み込んで早々に店を退散することにした。

カウンターに置かれた白い胡蝶蘭が、「またきてね。」とでも言っているように静かに微笑んでいる。慌ただしかったが、楽しいひと時ではあった。

孫たちも気に入ったようだし、また来てみよう。

## 実施事業・これからの事業日程

### ■ 「町田の図書館活動をすすめる会」との交流会

1月31日に町田市で図書館活動をしている「町田の図書館活動をすすめる会」の8名と中学1年男子の9名の皆さんが静岡に見えました。皆さんは静岡市の中央図書館と御幸町図書館の見学ほか、昼食をはさんで、「しずとも」運営委員6名との交流・情報交換会をしました。

「町田の図書館活動をすすめる会」は、農村図書館を作った図書館の先駆者である浪江虔(けん)氏が立ち上げた歴史のある会で、利用者だけでなく、図書館協議会委員、館長や職員、労働組合員など幅広い立場の会員がお互いの立場を尊重しながら立場を超えて地道な活動しています。財政難での今後の課題など「しずとも」との共通項も多く、とても楽しく充実した交流で私たちも多くを学ばせていただきました。

### ■ 静岡科学館「る・く・る」での読み聞かせ

静岡駅前の静岡科学館「る・く・る」の依頼を受け、昨年9月、11月、1月に2回ずつ3歳以下の子どもさん対象の『めばえの科学』ワークショップのテーマ(バッタ・光合成・静電気)に因んだ絵本の読み聞かせをさせていただきました。今年度も協力させていただきます。関心をお持ちの方、ご一報ください。



「る・く・る」での読み聞かせ風景

### ■ 第20回静岡県図書館交流会

毎年恒例の静岡図書館交流会も今年で20回を迎えます。今年は6月4日(土)午後を予定しています。場所は静岡県立中央図書館。講師は岡本真氏(アカデミック・リソース・ガイド代表『未来の図書館、はじめませんか?』の著者)。詳しくはチラシをご覧ください。

### ■ 2017年度第9回静岡図書館友の会総会・記念講演会 ※ 講師が決定しました！！

来年度の記念講演会の講師が決定しました。高橋源一郎氏は、明治学院大学教授で小説家、文学者、文芸評論家として幅広い活動をしており、日本のポストモダン文学を代表する作家の一人として知られています。ご期待ください。皆様の来場をお待ちしています。

- 講師：高橋源一郎氏
- 演題：未定
- 会場：静岡県総合研修所もくせい会館
- 日時：2017年2月26日(日)午後

静岡図書館友の会会報 No.15 2016.4

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先：(総務携帯) 080-6910-9434

Eメールアドレス：sizutomo2008@yahoo.co.jp

ホームページアドレス：http://www4.tokai.or.jp/sizu.tomo/

(会員数) 240人：2015年12月現在

(表紙イラストデザイン：j.t)

#### 編集後記

- ・北海道美瑛町の「哲学の木」を、苦渋の末伐採した news。「聞耳頭巾」があったなら、どんな木々の言葉が聞けたのでしょうか…？(J.T)
- ・3月に福島県の飯館村、岩手県の陸前高田市にて桜の植樹に参加。毎回被災地の方々から逆にパワーをもらってくる私です。(T.Y)
- ・地元の読書会でのこと。井伏鱒二「山椒魚」の結末が出版時で違うことが分かり、参加の皆さんも驚き、これも読書会の楽しみ？(H.H)